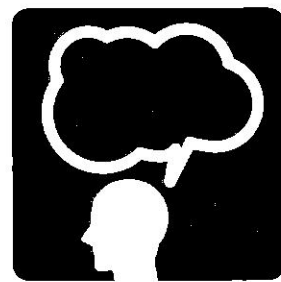


経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方<sup>⑦</sup>

自我作古

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「早川浩士の常在学場」(筒井書房)、「介護人材創造塾」(筒井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com  
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

夢あるものは希望がある

21世紀の超高齢社会に向けて「介護の社会化」と掲げて始まった介護保険は、1期3年の計画を4期続けて早や12年目を終え、干支で言えば一巡したことになる。

第5期介護保険事業計画がスタートする今春4月を踏まえ、「2012年度介護報酬改定においては、介護職員の処遇改善の確保、物価の下落傾向、介護事業者の経営状況、地域包括ケアの推進等を踏まえ、改定率が+1.2%(在宅+1.0%、施設+0.2%)になる」と厚労大臣が記者発表したのは、昨年12月21日のこと。

しかし、別枠で予算を確保していた介護職員の処遇改善分を介護保険財政から賄うため、実質的には0.8%程度のマイナスとなるとの目論みが広がるなか、1月25日に開かれた第88回社会保険審議会介護給付費分科会にて、12年度介護報酬改定案が示され了承された。

プラス改定へと報酬の評価を上げたのは、訪問看護と在宅復帰支援型の施設として①体制要件、②在宅復帰要件、③ベッド回転率要

件、④重度者要件を備えた強化型介護老人保健施設など、ごく一部。

多くのサービスは、「介護サービス提供の効率化・重点化と機能強化を図る観点から、各サービス間の効果的な配分を行い、施設から在宅介護への移行を図る」と、なぜか介護報酬の基本単位をマイナスに引き下げられてしまった。

夢あるものは 希望がある  
希望あるものは 目標がある  
目標あるものは 計画がある  
計画あるものは 行動がある  
行動あるものは 実績がある  
実績あるものは 反省がある  
反省あるものは 進歩がある  
進歩あるものは 夢がある

昨年末、盛岡の介護事業所で目に留まった言葉だ。

今回の改定を改(怪)悪と論じるばかりでは、「夢」や「希望」を見失って前には進められない。

我より古を作す

中国の「宋史」に出典があるといわれる「自我作古」は、「我より古を作す」と読み、これから自らが何かを行おうとすること、それは昔から受け継がれてきたものや考えを大切にしつつも、前人未到の

新しい分野を切り拓くという覚悟を持たなければならないというのが、その意である。

1月30日、国立社会保険・人口問題研究所から60年までの新しい推計人口が発表された。

50年先、人口は4000万人以上も減って、今の約3分の2にまで減少した社会へと変わる。

前人が経験したことのない超高齢社会と人口減少社会は、今を生きる誰にとっても踏み込んだことのない未知の領域だからこそ、自らが新しい歴史の1ページを記していくという気概を持って、予想しがたい困難や試練にも耐えながら新境地を切り拓くための勇気と使命感を発揮する覚悟が必要だ。

たとえば、介護サービス提供の効率化・重点化と機能強化を図る観点から、農協や漁協に習って協同組合化に踏み込んだ経営の効率化に取り組むのも一計である。

自らが生き残る。戦略から、地域に必要とされ期待される事業者として、競争・競走から共創・共走へと枠組みを転換することで価値残る。戦略を具体化していくという選択肢も経営判断の一つ。「夢あるものは希望がある」と。